

2015年3月期 決算説明会



2015年 5月25日

ユニチカ株式会社

1. 2015年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析(2013→2014)
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・事業構成
- ・2014年度事業構造改善費用の内訳
- ・成長投資事業の重点強化商品

1. 2015年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析(2013→2014)
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・事業構成
- ・2014年度事業構造改善費用の内訳
- ・成長投資事業の重点強化商品

業績の概要

衣料繊維や不織布、その他事業の減収にともない全体ではやや減収。

ポリエステル短繊維の抜本的な事業構造改革が利益面で大きく効果発現。

円安ドル高により、外貨建て資産の為替差益を計上。

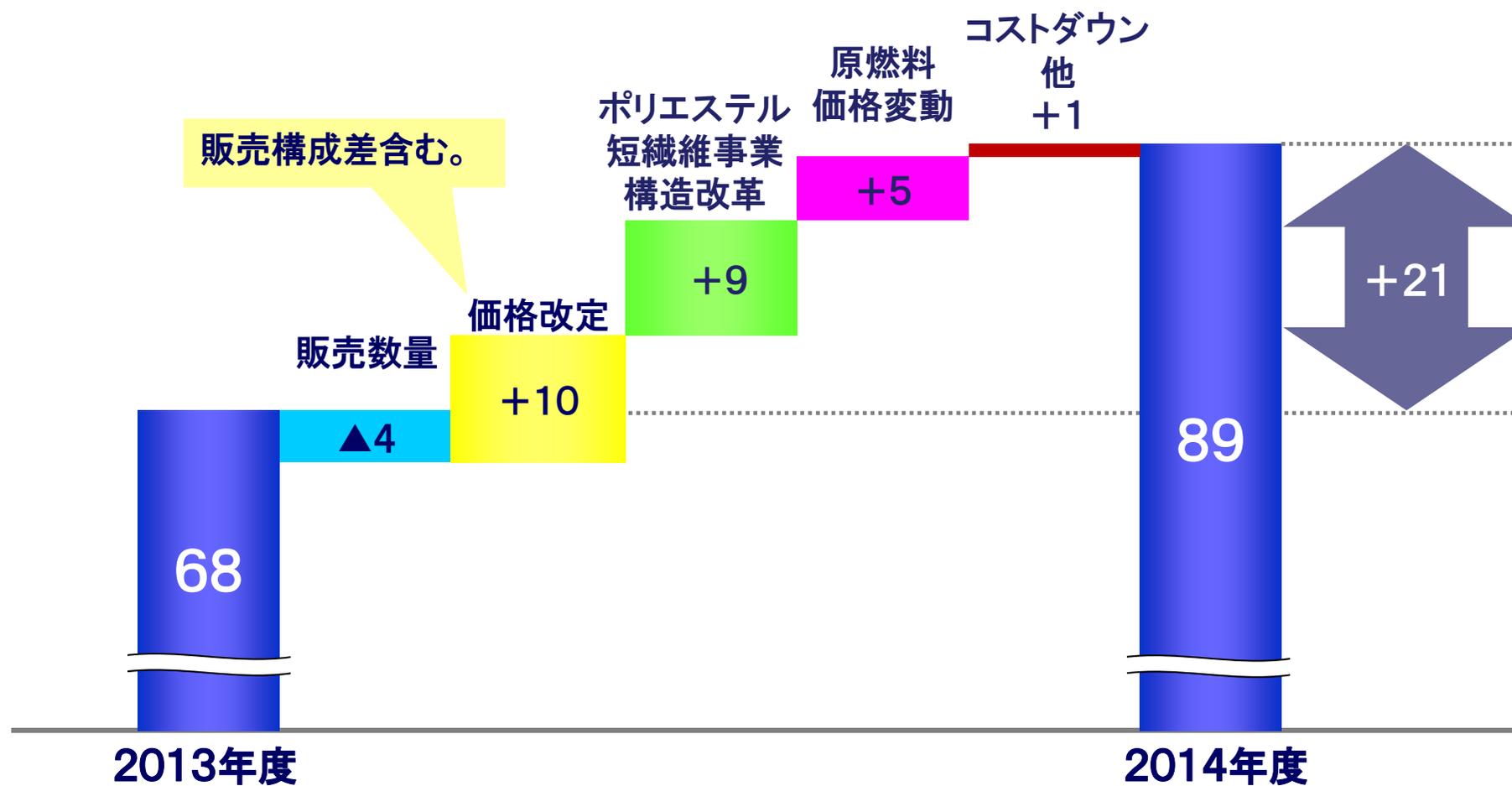
事業ポートフォリオ改革の一環として、事業構造改善費用や減損損失などを計上。

連結合計 (金額単位:億円)	2013年度 実績	2014年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,627	1,591	▲36	▲2%
営業利益	68	89	21	31%
経常利益	47	77	30	63%
当期純利益	6	▲270	▲276	—

セグメント別 (金額単位:億円)	2013年度 実績	2014年度 実績	前期比	
			金額	率
売上高	1,627	1,591	▲36	▲2%
高分子事業	655	645	▲11	▲2%
機能材事業	149	147	▲2	▲1%
繊維事業	682	668	▲14	▲2%
その他	141	132	▲9	▲7%
営業利益	68	89	21	31%
高分子事業	68	77	9	13%
機能材事業	19	20	1	3%
繊維事業	4	17	13	311%
その他	8	5	▲3	▲33%
消去・全社	▲32	▲31	1	—

営業利益変動要因分析(2013年度→2014年度)

(金額単位:億円)



資産・負債・純資産

(金額単位:億円)	2014年3月末	2015年3月末	増減
資産合計	2,542	2,359	▲183
流動資産	994	1,128	+134
固定資産	1,548	1,231	▲317
負債合計	2,348	2,043	▲305
純資産合計	194	316	+122
株主資本	192	292	+99
その他の包括利益累計額	▲37	▲8	+29
少数株主持分	38	32	▲6
有利子負債	1,646	1,339	▲307
自己資本比率	6.1%	12.0%	5.9%

1. 2015年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析(2013→2014)
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

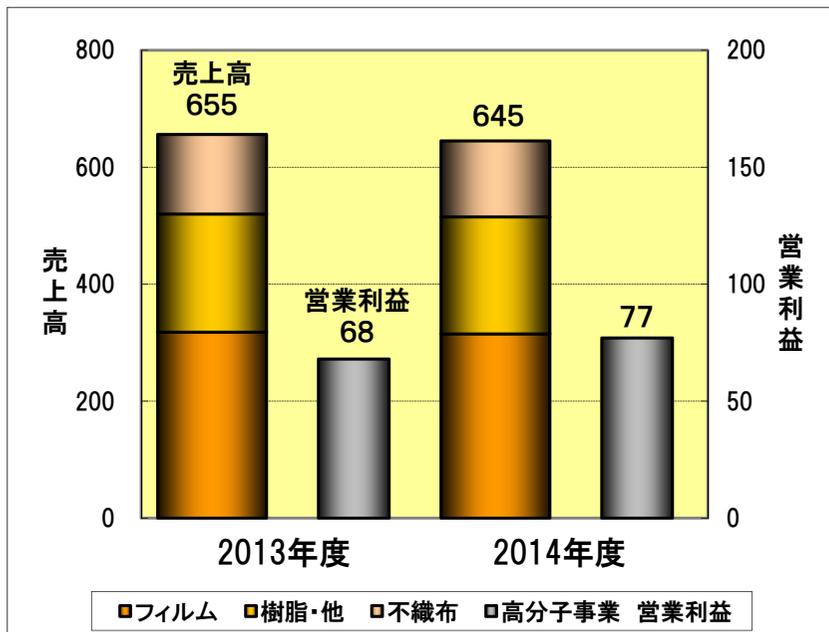
補足資料

- ・事業構成
- ・2014年度事業構造改善費用の内訳
- ・成長投資事業の重点強化商品

高分子事業の状況

国内市況低迷で販売数量は減少したが、原油安など追い風となり増益

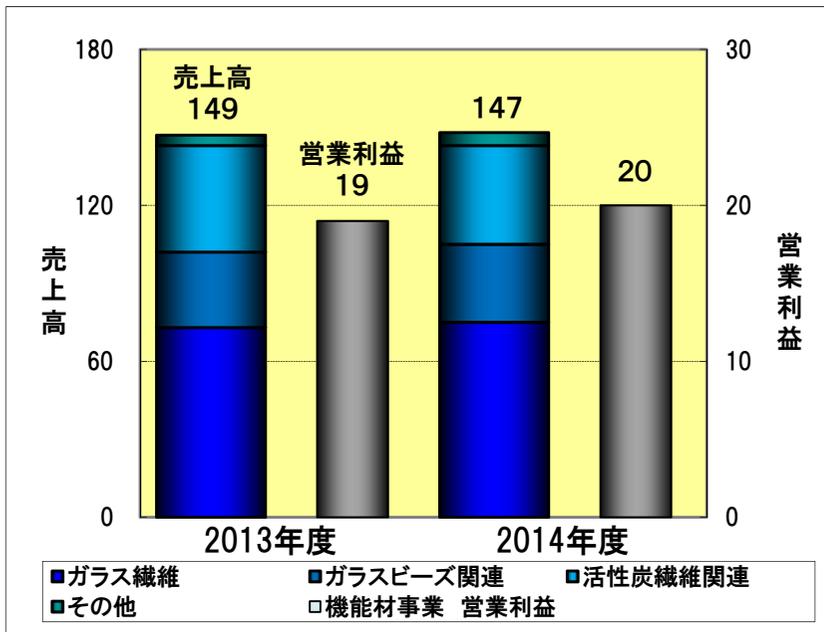
(金額単位:億円)	2013年度	2014年度	増減
高分子事業 売上高	655	645	▲11
フィルム	318	315	▲2
樹脂・他	202	200	▲2
不織布	136	130	▲6
高分子事業 営業利益	68	77	9



□フィルム 〔横ばい・増益〕	<p>◆ 包装分野 消費税増税後の消費低迷により、国内では販売数量が減少。</p> <p>◆ 工業分野 ポリエステルフィルムは、電気・電子機器用途の市況回復により販売数量増加。</p>
□樹脂・他 〔横ばい・増益〕	<p>◆ ナイロン樹脂 自動車用途などが堅調に推移。</p> <p>◆ ポリアリレート樹脂「Uポリマー」 情報端末機器用途で販売数量が増加。</p> <p>◆ ポリエステル樹脂他 環境配慮型の水性エマルジョン「アローベース」は、期後半から売上が伸長。</p>
□不織布 〔減収・増益〕	<p>◆ ポリエステルспанボンド 消費税増税後の消費低迷により、国内は産業資材、生活資材用途とも低調に推移。</p> <p>◆ コットンспанレース フェイスマスク用途を中心に堅調に推移。</p>

活性炭繊維が低調となるも、ガラス繊維、ガラスビーズでカバー

(金額単位:億円)	2013年度	2014年度	増減
機能材事業 売上高	149	147	▲2
ガラス繊維	73	75	2
ガラスビーズ関連	29	30	1
活性炭繊維関連	41	38	▲4
その他	4	5	0
機能材事業 営業利益	19	20	1



□機能材 〔減収・増益〕

◆ ガラス繊維・産業資材分野
建築用途を中心に堅調に推移。

◆ ガラス繊維・電子材料分野
ICクロスは情報端末機器用途の高付加価値品(超薄物タイプ)へのシフトが進み販売が伸長。

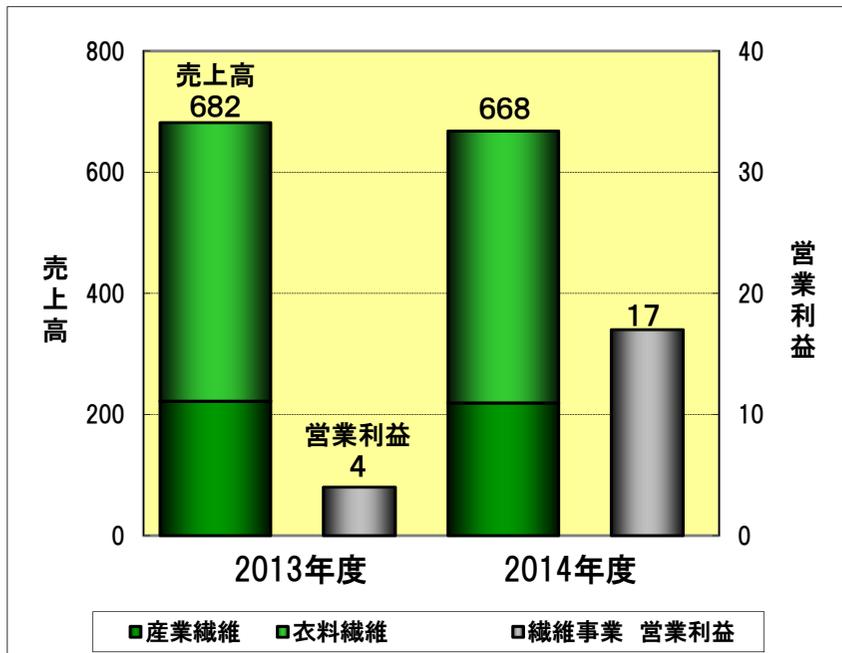
◆ ガラスビーズ
ロードマーキング用途で売上が減少したが、自動車向けなど工業用途や反射材用途で売上増加。

◆ 活性炭繊維
主力の浄水器用途が低調に推移。
自動車用途や空気清浄機用途も売上減少。

繊維事業の状況

**産業繊維は事業構造改革により収益が改善
衣料繊維はスポーツ分野などで苦戦するも収益は確保**

(金額単位:億円)		2013年度	2014年度	増減
繊維事業	売上高	682	668	▲14
	産業繊維	222	219	▲3
	衣料繊維	460	449	▲11
繊維事業	営業利益	4	17	13



□ 繊維 [減収・増益]

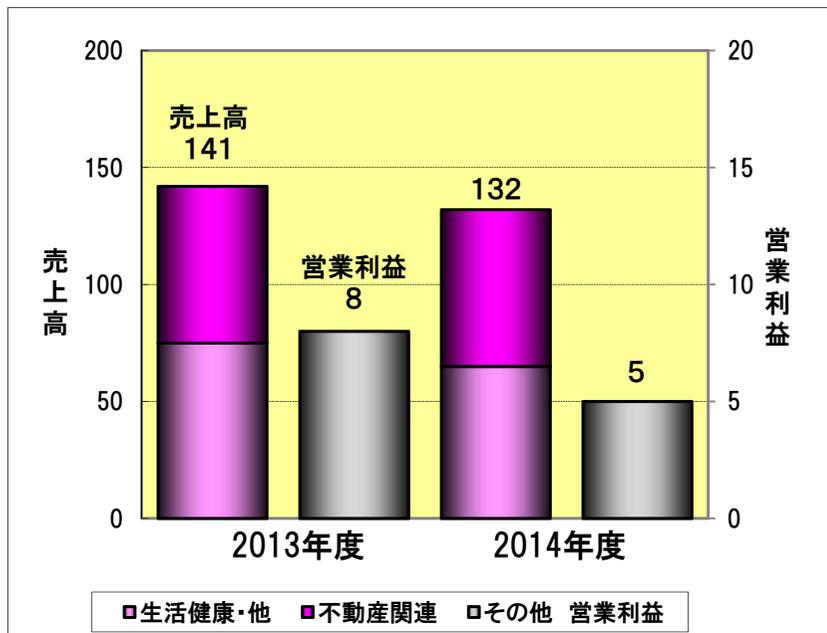
◆ **産業繊維**
 ポリエステル高強力糸は、主力の建築・土木分野で好調に推移。
 ポリエステル短繊維は、抜本的な事業構造改革が奏功し収益は増加。
 ビニロン繊維は、アスベスト代替のセメント補強用途で高採算製品への販売転換が進み採算が改善。

◆ **衣料繊維**
 ユニフォーム分野は、ワーキング用途が好調に推移したが、円安による海外生産品の調達コストが上昇。
 スポーツ分野や寝装分野は国内市場で苦戦。
 レディス分野は、二次製品販売に加え織物・ニット生地の販売が堅調。

その他の状況

生活健康や不動産関連事業は堅調に推移するも、その他の事業で減収

(金額単位:億円)	2013年度	2014年度	増減
その他 売上高	141	132	▲9
生活健康・他	75	65	▲10
不動産関連	67	67	0
その他 営業利益	8	5	▲3



□その他 〔減収・減益〕

◆生活健康

健康食品は消費税増税の影響により低調。機能性食品原料や飼料原料は好調に推移。

◆メディカル

カテーテルは堅調に推移し、増産に伴うコストダウン効果もあり収益が増加。

◆不動産関連

マンション販売は、期後半に竣工した物件の販売が堅調に推移。

◆その他

ユニチカ設備技術(株)が耐火スクリーンの改修工事対応に注力しており、新規販売の中止に伴い売上・利益とも減少。

1. 2015年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析(2013→2014)
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・事業構成
- ・2014年度事業構造改善費用の内訳
- ・成長投資事業の重点強化商品

2016年3月期通期業績予想

成長戦略、事業ポートフォリオ改革推進などで数値目標を達成する

(金額単位:億円)	2014年度実績	2015年度予想	前期比増減
売上高	1,591	1,450	▲141
営業利益	89	113	24
経常利益	77	88	11
当期純利益	▲270	30	300

与件	2015年度
原油(\$/バレル)	55(上期)/65(下期)
為替(円/\$)	120

◆ 2014年5月に公表した新中期経営計画の施策を着実に遂行する。

- 事業ポートフォリオ改革の完遂をめざす。
- 高分子事業への経営資源の集中投下。
 - ・ 成長市場であるアジア地域への製品供給能力を拡大。
 - ・ 国内外での高付加価値品の拡販。

➡ **機能素材メーカーとしての事業拡大**

セグメント別業績予想

(金額単位:億円)	売上高			営業利益			主な施策
	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比 増減	2014年度 実績	2015年度 予想	前期比 増減	
高分子事業	645	680	35	77	92	15	新バリアフィルムや耐熱ポリアミドフィルムの拡販。 インドネシア子会社のナイロンフィルム新機台稼働に伴う海外市場でのシェア拡大。 「アローベース」「ゼコット」の用途展開の加速。 タスコにおける生産設備の増設に向けて、マーケティングを強化。
機能材事業	147	150	3	20	19	▲1	ICクロスの差別化を更に深化することで、情報端末機器用途へ拡販。 活性炭繊維における浄水器用途などでの海外展開の加速。
繊維事業	668	580	▲88	17	25	8	産業繊維は事業ポートフォリオ改革を引き続き進め収益力強化を図る。 衣料繊維は中国・ASEANでの販売強化。国内の高付加価値品拡販。
その他	132	40	▲92	5	▲5	▲10	
消去・全社				▲31	▲18	13	
合計	1,591	1,450	▲141	89	113	24	

1. 2015年3月期決算概要

- ・業績の概要
- ・営業利益変動要因分析(2013→2014)
- ・資産・負債・純資産

2. 各事業セグメントの状況

- ・高分子事業の状況
- ・機能材事業の状況
- ・繊維事業の状況
- ・その他の状況

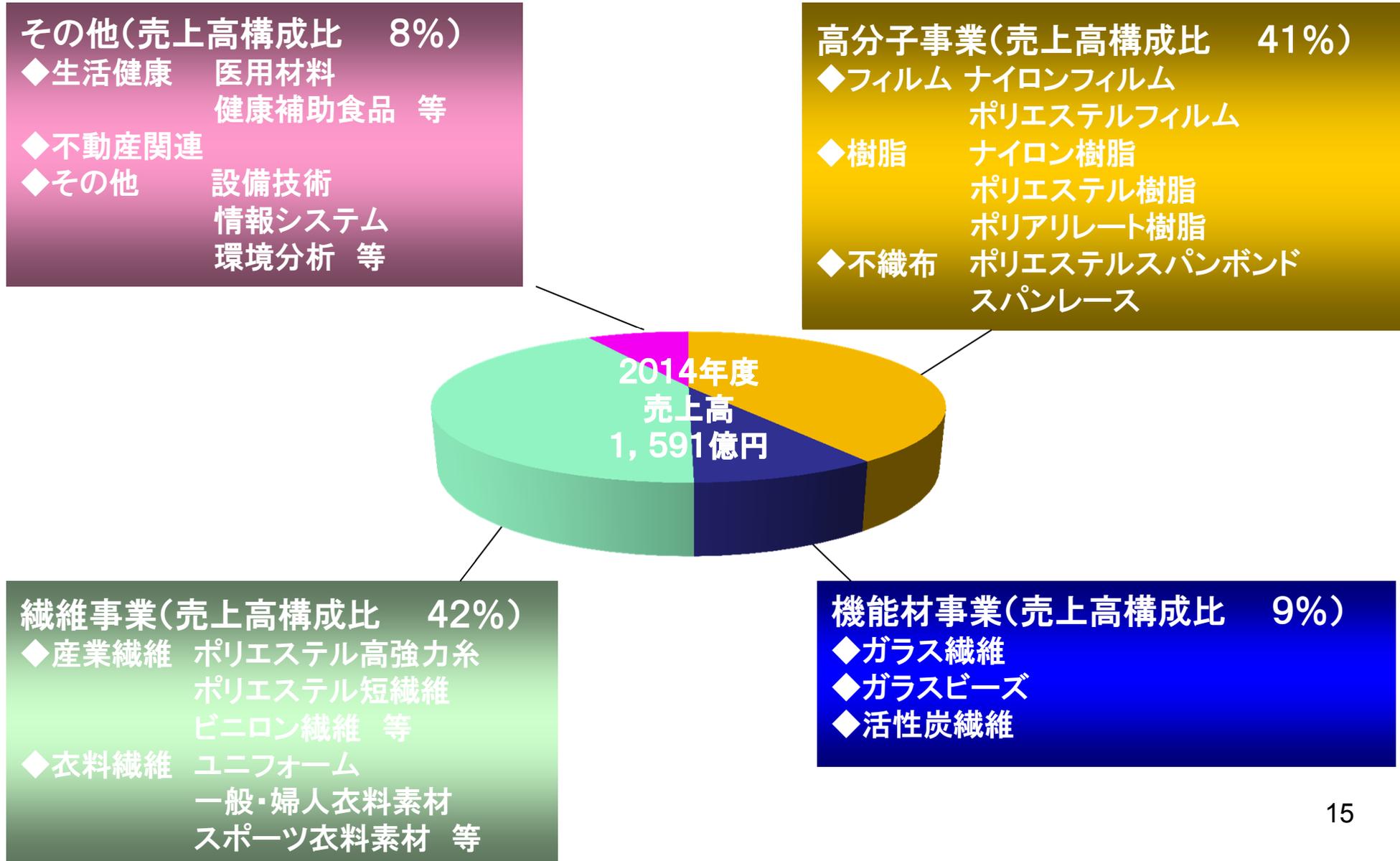
3. 2016年3月期通期業績予想

- ・2016年3月期通期業績予想
- ・セグメント別業績予想

補足資料

- ・事業構成
- ・2014年度事業構造改善費用の内訳
- ・成長投資事業の重点強化商品

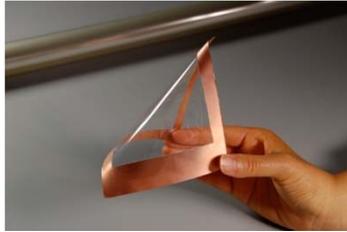
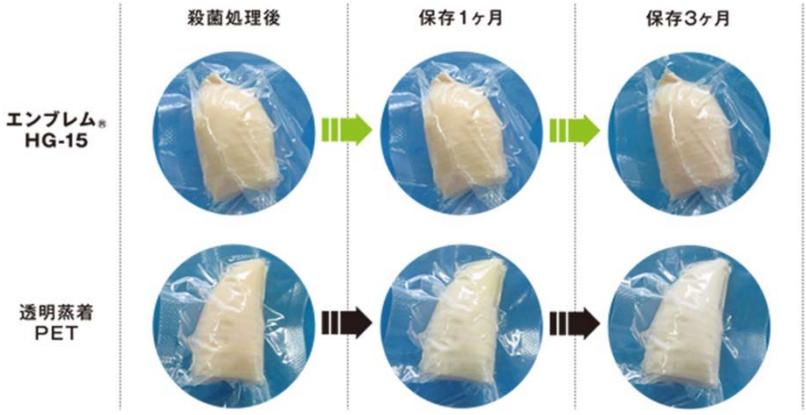
事業構成



2014年度事業構造改善費用の内訳

科目	内容	金額(億円)
事業売却及び 子会社売却	<ul style="list-style-type: none"> ➤ メディカル事業(事業売却) ➤ 生活健康事業(事業売却) ➤ ユニチカ赤穂開発(子会社売却) ➤ ユニチカバークシャー(子会社売却) <p style="text-align: right;">など</p>	65
事業縮小・撤 退及び清算	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ポリエステル短繊維(事業縮小) ➤ ビニロン(生産停止) <p style="text-align: right;">など</p>	39
不動産関連	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 豊橋事業所(減損損失) ➤ 貝塚事業所(減損損失) <p style="text-align: right;">など</p>	202
その他		6
		312

成長投資事業の重点強化商品

フィルム	高耐熱ポリアミドフィルム		<p>ユニチカのフィルム加工技術を駆使して開発した高耐熱ポリアミドフィルム。 工業フィルムの差別化アイテムの一つとして、フレキシブル基盤関連分野を中心に採用活動を強化。</p>
	エンブレムHG		<p>ボイル・レトルト食品向けに開発した新バリアフィルム。高いバリア性能を有し、物理的ストレス耐性に優れる。従来の透明蒸着フィルムよりも、食品の色目保持機能が格段に高いことが確認できている。高付加価値商品として採用活動を開始。</p> <div style="text-align: center;">  <p>殺菌処理後 保存1ヶ月 保存3ヶ月</p> <p>エンブレム® HG-15</p> <p>透明蒸着 PET</p> <p>透明蒸着PET構成品では、内容物が退色している(白くなっている)ことが確認できます。</p> </div>

成長投資事業の重点強化商品

樹脂	XecoT (ゼコット)		<p>熱可塑性耐熱ポリアミドの中で、耐熱性・結晶性・低吸水性・耐薬品性・耐摩耗性・電気特性・高品質のいずれをとっても世界最高レベルの性能を有するバイオマス由来樹脂。中量産設備(500t/年)が稼働開始。ユーザーへの本格採用へ向けた活動を加速。</p>
	アローベース		<p>界面活性剤を含有しない画期的な変性ポリオレフィン樹脂の水性分散体で、オレフィン系樹脂などとの密着性・耐水性・耐アルカリ性などに優れる。ニーズに合わせたラインナップの拡充(機能性向上)で販売拡大を目指す。</p>
不織布	Dilla (ディラ)		<p>異型断面と高繊維度のポリエステル長繊維からなる高性能スパンボンド不織布。剛性や通気性に優れ、フィルター用途をはじめ、産業・農業・生活資材用途へ幅広く展開が可能。</p>

ご注意

本資料中の予想は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいております。実際の業績は、今後の種々の要因によって異なる結果となる可能性があります。